

主題：三一の神が三部分から成る人に命となる

メッセージ 9

主に対して務めをし、主を隠されたマナ、芽を出した杖、命の法則として享受する

聖書：エゼキエル 44:10-11, 15-18. 使徒 13:1-2. ヘブル 9:3-4

I. 「イスラエルが迷ったとき、わたしから遠く去って行き、自分たちの偶像を慕ってわたしから迷い出たレビ人は、自分たちの罪科を負わなければならない。彼らはわたしの聖なる所で務めをし、家の城門で見張りをし、家で務めをしなければならない。彼らは民のために全焼のささげ物と犠牲をほふり、彼らの前に立って、彼らに対して務めをしなければならない……しかし、ザドクの子たちであるレビ人の祭司たち、すなわちイスラエルの子たちがわたしから迷って行ったとき、わたしの聖なる所の任務を守った者は、わたしに近づいて来て、わたしに対して務めをし、わたしの前に立って、脂肪と血をわたしに献げなければならないと、主エホバは告げられる。彼らはわたしの聖なる所に入り、わたしの食卓に近づいて来てわたしに対して務めをし、わたしの任務を守る」——エゼキエル 44:10-11, 15-16 :

- A. 神の目に、ただ家に対する務めがあるだけではありません。さらにまさった務め、すなわち、主に対する務めがあります。
- B. 神にはただ一つの目標があります。それは完全に「わたし」に属している人を得ることです。言い換えれば、彼はわたしたちが「わたし」の臨在の前におり、「わたし」に対して務めをすることを欲しています。神の唯一の目標は多くの事柄にあるのではなく、「わたし」にあります—— 15-16 節。
- C. 主に対して務めをすることは、わたしたちが家を見捨てることを意味したものではありません。主に対して務めをする人たちはまた、福音を宣べ伝えて罪人を救い、兄弟姉妹を助けて前進させます。しかし、彼らの一つの目標は主のためであり、彼らの焦点は主ご自身です。彼らは完全に主のために人を尊びます。
- D. わたしたちは主の臨在に来て、ただ彼だけを見つめるなら、自然に兄弟姉妹に対しても務めをすることができるようになります。わたしたちが主に対して務めをしているかどうかという質問は、主がわたしたちの心の中で第一位を占有しているかどうかにかかっています。
- E. わたしたちが主の奉仕において行なうことは何であれ、主のためであるべきです。それは彼の満足、彼の心の願い、彼の幸い、彼の目標、彼の喜び、彼の栄光のためであるべきです。
- F. 主の働きにも、わたしたちの肉を引き付け魅了する領域があります。なぜなら、それらはもっぱらわたしたちの自己の喜びと栄光のためであるからです——参照、II コリント 4:5。
- G. だれも、祈りの中で彼に近づき、近寄ることなしに主に対して務めをすることはできません。霊的な力は、宣べ伝える力にあるのではなく、祈る力にあります。

す。どれほどわたしたちが祈るかは、どれほどわたしたちが内なる力を真に持っているかを示します。

H. わたしたちは至聖所において主に対して務めを行なうことを欲するなら、主の御前で時間を費やし、さらに多く祈らなければなりません。わたしたちは彼に近づき、彼の御前に立ち、彼のみこころを待ち望む必要があります。

I. 祈ることは、神の御前に立つことです（エゼキエル 44:15）。それは彼の御前で彼のみこころを尋ね求めて、傲慢の罪から救われることです（詩 19:13）。

J. 主に対して務めをする者たちは、脂肪と血を彼に献げなければなりませんでした——エゼキエル 44:15：

1. ささげ物の脂肪はキリストのパー孙の尊さを予表しますが、血はキリストの贖いの働きを表徴します。

2. わたしたちの神に対する奉仕において、わたしたちは両方とも彼に献げなければなりません。血は神の聖、義のためであり、脂肪は神の栄光のためです。

K. 主に対して務めをする者たちは亜麻布の衣服を着なければならず、毛織り物を身に着けたり、汗の出るような物を身に着けたりしてはなりませんでした—— 17-18 節：

1. 亜麻布の衣服は、命を与える霊の中での、キリストの命による日常生活と歩みを表徴します。そのような生活と歩みは、純粹で、清く、細やかです。

2. 毛織り物は祭司たちに汗を出させました（18 節）。それは墮落した人が神のろいの下で、神の祝福がなく、自分自身の能力と力によって労苦するというしるしです（創 3:19）。

3. 汗が出る働きとは、人の努力から生じる働きであり、父なる神からの祝福がありません。主に対して務めをする人はみな、汗が出ない働き、人の努力や肉的な力のない働きを行なわなければなりません。

4. わたしたちが神の臨在の中で十分な時間を費やし、彼と適切にやりとりを持つなら、人の前で汗を出す必要はありません。わたしたちは最小の力をもって最大の働きを成し遂げることができます。

L. 「さて、アンテオケの地に在る召会には……預言者たちと教える者たちがいた。彼らが主に仕え [主に対して務めをし]、断食していた時、聖霊が言われた、『さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び分け、わたしが彼らを召した働きに当たらせなさい』」——使徒 13:1-2：

1. これは新約の働きであり、新約の働きに対する唯一の原則です。それは、主に対して務めをする時にのみ、聖霊の働きは啓示されることができるということです。

2. 主に対して務めをする時にのみ、聖霊は人を遣わします。わたしたちが主に対して務めをするを最優先にしないなら、すべてのことは順序が狂ってしまいます。聖霊だけが人に働くように遣わす権威を持っています。

3. 主に対して務めをするとは、外側でのすべての働きを捨て去ることではありません。そうではなく、外側でのすべての働きは主に対するわたしたちの

務めに基づいているべきです。

- わたしたちは主に対するわたしたちの務めから出て行くのであって、わたしたち自身の願いからではありません。それは主に対する務めにおいて何の根拠也没有ありません。

II. 「また第二の幕の後ろにある幕屋は、至聖所と呼ばれています。そこには……全面、金で覆われた契約の箱が有って、その中には、マナが入っている金のつぼと、芽を出したアロンの杖と、契約の板とがありました」——ヘブル 9:3-4 :

A. 隠されたマナは、わたしたちと神との間に隔たりがないときに、神の臨在の中でわたしたちが享受するキリストの分け前です。わたしたちと主との間に隔たりがないとき、わたしたちは最も親密で隠された方法でキリストを享受します。これが隠されたマナ、隠されたキリストの分け前を享受することです——出 16:31-36 :

- ペルガモに在る召会における状態に勝利を得ることは、今日のキリスト教の一般的な実行からわたしたち自身を分離し、神の臨在の中にとどまって他の何にでもなく、直接神に対して務めをすることです。ここでわたしたちはキリストからのものを享受します。それは彼の臨在から遠く離れているすべての者が味わうことのできないものです——啓 2:17。
- わたしたちが隠されたマナを享受したいなら、わたしたちと神との間に隔りがあるのはなりません。わたしたちと主との間の隔りはすべて除き去られなければなりません。
- わたしたちは主に対して務めをし、彼を隠されたマナとして享受するとき、彼との直接の交わりを持ち、彼の心と意図を知ります。主の臨在の中で、わたしたちは彼をもって、彼の意図をもって、彼がわたしたちに行なってほしいすべてのことをもって、委託されることができます。
- わたしたちは主に対して務めをするとき、神の委託を持ちます。なぜなら、わたしたちは神の臨在の中におり、わたしたちと神との間には何の隔りもないことを認識しているからです。

B. 芽を出した杖は、復活した方であるキリストを表徴し、わたしたちの命、わたしたちの生活、わたしたちの内側にある復活の命であるべきです。この命は芽を出し、開花し、実を結んで円熟すべきです——民 17:8 :

- イスラエルの子たちが反逆した後、民数記第 16 章において記録されているように、神は十二人の族長たちにイスラエルの十二部族にしたがって十二本の杖を取り、それらを証しの天幕の中にある契約の箱の前に置くように命じました。それから彼は言われました、「わたしが選ぶ人の杖は芽を出す」—— 17:5。
- 十二本の杖はすべて葉がなく、根がなく、乾いており、枯れて、死んでいました。芽を出した杖はどれであれ神によって選ばれた杖でした。ここでわたしたちが見るのは、復活が神の選びの根拠であるということと、奉仕の根拠がわたしたちの天然の命の外にあるものであるということです。こういうわけで、芽を出した杖が表徴するのは、わたしたちが復活のキリストを経験し

て、神に受け入れられ、神の与えられた務めにおいて權威を持つということです。

3. あらゆる奉仕の原則は、芽を出した杖にあります。神は十一本の杖をすべて族長たちに戻しましたが、アロンの杖を契約の箱の中に保存し、永遠の記念としました。これが意味するのは、復活が神に対するわたしたちの奉仕における永遠の原則であるということです——9-10節：
 - a. 復活が意味するのは、すべてのものが神からであって、わたしたちからではないということです。それが意味するのは、ただ神だけができ、わたしたちはできないということです。
 - b. 復活が意味するのは、すべてのことが神によってなされるのであって、わたしたちによってなされるのではないということです。復活を認識している人はみな、自分自身の望みを放棄しており、自分ができないということを知っています。
 - c. 天然の力が残っている限り、復活の力は現されることができません。サラが自分で産むことができる限り、イサクはやって来なかったでしょう——創18:10-15. 21:1-3, 6-7。
 - d. わたしたちができることは、天然の領域に属します。わたしたちができないことは、復活の領域に属します。人は自分自身が終わらされなければなりません。そうしてはじめて、人は自分が全く役に立たないことを確信します——マタイ 19:26. マルコ 10:27. ルカ 18:27。
 - e. 人は自分自身にできないことを認識したことがないなら、決して神にできることを経験することはできません。復活が意味するのは、わたしたちができないということと、神がすべてのことを行なった方であるということです——参照、Ⅱコリント 1:8-9. 4:7。
- C. 契約の板、すなわち、律法の板が表徴するのは、神聖な命の法則、すなわち、神聖な命の自然な力、自動的な機能、本来の能力、神聖な性能です——エレミヤ 31:33. ヘブル 8:10. 参照、ローマ 8:10, 6, 11. 10:12-13：
 1. 命の法則、この神聖な性能は、わたしたちの中ですべてのことを行なって、神のエコノミーを完成することができます：
 - a. この性能にしたがって、わたしたちは神を知り、神を生き、神の命と性質において神をもって構成されることができます。それはわたしたちが彼の増し加わり、彼の拡大となり、彼の豊満となって、彼を永遠に表現するためです——エペソ 1:22-23. 3:19-21。
 - b. さらに、命の内なる法則の性能は、わたしたちをキリストのからだの肢体に構成し、あらゆる種類の機能を持たせます——4:11, 16。
 2. 神聖な命がわたしたちの中で成長するとき、命の法則は機能してわたしたちを神の長子であるキリストのかたちに形づくり、同形化します——ローマ 8:2, 29：
 - a. 命の法則は間違ったことを行なうことを規制するものではありません。それ

は規制して命を形成します。

- b. 命の法則が機能するのは、おもに消極的な面でわたしたちに何を行なわな
いかを告げることに於いてではありません。そうではなく、命が成長する
とき、命の法則は積極的な面でわたしたちをキリストのかたちに形づくり、
同形化することにおいて機能します。
- c. 命の法則の機能を通して、わたしたちはみな神の円熟した子たちとなり、
神はご自身の宇宙的な表現を得ます。

© 2013 *Living Stream Ministry*